

平成22年度事業報告書

(平成22年4月1日から平成23年3月31日)

3月11日は本財団にとって宿命的な日となりました。

その時、午後2時44分。秋葉原でウェブ書籍の調査の作業中で、iPad、スマートフォン、アンドロイド端末などの新製品を手にとり機能の説明を受けているところでした。

午後3時に中国との文化交流事業の打合せ予定があったため、至急研究所へ戻らねばならず、秋葉原から表参道に向かう交通手段はタクシーしかありません。しかし地震発生後約30分間、秋葉原の大通りは人も車も少なく、静寂な空間でした。やっと来た空車のタクシーにのり、表参道へ向かう道はガラガラな状況で、渋滞に会うこともなく極めて順調に、研究所に戻ることができました。時刻は16時40分でありました。帰宅難民が街にあふれるようになったのは我々が研究所に戻って一息ついた頃、17時を過ぎたあたりからでした。

都内では家族との連絡、更には被災地にいる家族・友人・知人の安否確認・・・一斉に皆が携帯電話を利用したため回線が断絶、緊急時の通信の盲点が露呈されました。

この未曾有の出来事を経験したときから、当財団の使命を更に見直し、確認する作業の重要性を改めて認識し、作業に取り掛かることにいたしました。

また、平成22年度は、当財団の大きな節目の年となるため、新公益法人に向けて脱皮するための基盤の確保に重点をおきました。本財団は大学院と同格に文部科学省科学研究費を申請することが許されている組織であります。そのために資金と人材の確保の裏付けが不可欠です。同時に、『電磁応用』に関わる科学技術の歴史を紐解き、未来に向けての足がかりの礎を築く作業を行う組織でもあります。

これらをふまえ、川原田政太郎の目指した探究心と創造意欲を一層旺盛にする研究活動と、その成果の実社会への具体的な貢献を行うことを使命として努力してまいりました。

1. 事業の実施状況

基本的に、前年度までに着手し、準備してきた事業を継続し、時代の変化に即した研究課題を選択して集中し、事業の中長期的な計画を立案し、関係機関に働きかけました。

1. 1. 早稲田大学佐藤教授、大聖教授と連携し、電気自動車と情報通信技術の連携による新産業の創設を意図した研究会を4回開催しました。

- 1) 早稲田大学 ICT-EV 研究会と共同事業を行いました。
- 2) ICT スマートグリッド技術研究会（電子情報通信学会通信ソサイアティ時限研究会）との共同事業を企画しました。
- 3) 今後のナビゲーションシステムの普及についての研究会を開催しました。
- 4) 清華大学＝早稲田大学連携事業の足がかりを付ける下記の意見交換会を持ちました。
課題:新しい時代に向けて一環境・情報通信・電気自動車を考える一

- 日時: 5月13日 木曜日 11:00-16:00
 - 場所: 小野梓講堂 <http://www.waseda.jp/cac/ono.html>
 - プログラム (日本語同時通訳)
- | | |
|-------------|---|
| 11:00-11:10 | 佐藤拓朗, 早稲田大学 GITS 教授, “開会の辞” |
| 11:10-11:30 | 牛志昇, 清華大学電気電子教授, 情報科学技術副所長, “グローバルな資源の最適化と高効率エネルギーネットワーク(GREEN)”. |
| 11:30-11:45 | 大聖泰弘, 早稲田大学環境エネルギー研究科教授, “2020年を目指した効率的車社会の実現” |
| 11:45-12:00 | 趙千川, 清華大学知的ネットワーク自動制御センター教授, “ICTによるファシリティエネルギーの効率化”. |
| 12:00-13:00 | 出席者の意見交換を行う昼食会 |
| 13:00-13:15 | 大谷明, NTT データ法人システム事業本部サービス企画部部長., “EV 電力供給 ～ビジネス面からの技術的要求”. |
| 13:15-13:30 | 陳文光, 清華大学コンピュータ科学技術部教授, 副所長, “専用アーキテクチャーとグリーン化高性能コンピュータの実現”. |
| 13:30-13:45 | 姉川尚史, 東京電力技術開発研究所電動推進グループ, “EV への高速電力供給の要求機能”. |
| 13:45-14:00 | 廣田寿男, 博士, 日産自動車, 技術顧問 “ゼロエミッションを目指した日産リーフ電気自動車の開発”. |
| 14:00-14:15 | 菅原愛子, ホンダ自動車, インターナビテレマティック部, “インターナビプレミアム倶楽部について”. |
| 14:15-14:30 | 岐部景子, 沖電気 ITS センター, “ITS からの視点”. |
| 14:30-14:40 | 休憩 |
| 14:40-14:55 | 張林, 清華大学電気電子助教授副所長, “IOT の開発とユビキタス中国”. |
| 14:55-15:10 | 竹田義行, NTT ドコモ R&D センター副所長, 執行役取締役, “進化を目指したドコモのチャレンジ”. |
| 15:10-15:25 | 富田二三彦, iSIPc センター, “グローバルビジネスに求められる IP ベースの標準化要件”. |
| 15:25-15:35 | 富永英義, 早稲田大学名誉教授, “まとめと総括”. |
| 15:35-15:40 | 亀山渉教授, 早稲田大学 GITS 教授, GITS 研究科長, “閉会の辞” |
| 15:45-15:50 | 謝維和, 清華大学副総長, “ご挨拶”. |
| 15:50-15:55 | 内田勝一, 早稲田大学教授, 副総長, “ご挨拶”. |

1. 2. 電子書籍検討会の開催

永年の研究成果と人脈を活かして、電子書籍検討会を定期的で開催しました。特に、この20年の間、電子書籍に関連する多くの製品とシステムが市場に発表されているにもかかわらず

ず、どれも短命で決定的な方向が見出されなかった理由を追求して電子書籍の将来像のイメージを見出す作業を行いました。アップル社、アマゾン社、及びアドビ（これを 3A と呼ぶ）の後に続々と電子書籍リーダー端末の製品が現れる勢いですが、これらのシステムに囲われることのないプラグインフリーによる WEB ブラウザ型電子書籍の地球的な規模での普及を目指す体制を構築するグループを生み育てる方策を志向し、当財団がその核となる機能を持つことを目指す見通しを立て、次年度の作業に発展させることに致します。

- 1) プラグインフリーによる電子書籍プラットフォームシステムの実現
 - ⇒義務教育電子教科書の特定プログラム・システム（Apple、Adobe、Google 等）からの独立
 - ⇒教育機関における中古コンピュータの再利用 OS の開発と国際標準化作業
- 2) クラウドファイリングシステムの基本設計とその企業での活用環境の整備

1. 3. 公益法人としての研究課題テーマの検討

地上波デジタルのテレビ放送と FTTH の家庭への普及は、誰でもが手軽にデジタル動画コンテンツの配信が可能になることを意味します。と同時に古い媒体に貯蔵されているコンテンツの再生と再利用の仕組みが大きな市場をもたらす予感がします。電子媒体の急速な変遷はコンテンツの制作や流通において多くの課題を残しています。デジタルメディアの合理的な成長には媒体やコンポーネントの持続的な新陳代謝の仕組みの構築が必然です。そこで、MPEG 開発の人脈を介してその方策の検討作業を行い新事業の可能性を模索しました

身の丈にあった財団法人のあり方を模索しつつ関係各位の協力を得ております。これらの検討内容を、できるだけ速やかに公表する手段としての WEB の日常的な運用体制を整えつつあります。

ご示唆、ご協力いただいております関係各位に深く感謝いたします。

1. 4. 産学連携事業の推進

早稲田大学国際情報通信研究センター主催のフォーラムに共催または後援をし、事務局機能を受け持ちました。

テーマ 「日本と中東地域との情報通信分野における国際連携」

日 時 2010年6月3日

会 場 早稲田大学 国際会議場・井深大記念ホール

1. 5. 映像情報通信技術を応用した安全・安心を確保する居住空間の研究とその産学連携研究によるパイロットモデル事業

ディベロッパーとの共同研究テーマを意図しましたが経済状況の急変により当初の計画を実行に移す条件が整っておりません。

1. 6. 政太郎記念室の運用事業および音楽教育に関する事業

バイオリン演奏のブロードバンドネットワークによる遠隔レッスンの可能性の検討、楽譜書面の CeBook の制作環境の整備に着手しました。

1. 7. 早稲田大学の研究室との連携による研究の受託事業

研究課題：ハードウェア/ソフトウェア協調設計に関する研究

研究代表者：大附辰夫（早稲田大学教授、当研究所理事、研究員）

長年の受託研究を終了しました

NPO 法人学校マルチメディアネットワーク支援センターとの共催事業

早稲田大学理工学総合研究所の研究室おかれていた NPO 法人の事務局を撤去して神田に事務所を移転したこととともない、連携事業の見直しをしました。

2. 会議報告

【評議員会・理事会】

平成 22 年 6 月 25 日（火）

18:00--平成 22 年度第 1 回電磁応用研究所評議員会

19:00--平成 22 年度第 1 回電磁応用研究所理事会

平成 23 年 3 月 29 日（火）

18:00--平成 22 年度第 2 回電磁応用研究所評議員会

19:00--平成 22 年度第 2 回電磁応用研究所理事会

【研究会、懇談会、作業部会】

1) クラウドファイリング事業化研究会

毎月 2 回の頻度で定期打ち合わせ会を持ちました、積極的に関係企業の担当者に機能のキャンペーンを行い、営業活動を進めました。HP にその活動の状況を公開しています。

2) 電子書籍の委託調査を SCAT から受けました。

AIC（アジア情報通信基盤共同研究会）事務局の解散にとともない、AIC の課題を受け継ぎ、さらに AIC の国際的人脈をつなげることを意図して、浦野教授の提案で、残余の研究費を当財団に移管する目的で調査研究の受託を受けました。30パーセントの管理費を当財団の一般会計にいれ、残りは、新たな国際共同研究事業に当てる特別会計とすることにします。

3) クラウドにおける IP の安全性に関する海外文献調査を NICT から委託を受けました 中里教授、Zhou 准教授、の協力をえて、大学院学生 20 人が分担しました。

4) 通信技術懇談会

定例の懇談会を 4 回行いました。

○ 平成 22 年 4 月 23 日

「情報通信分野の研究開発」

（独）情報通信研究開発機構 理事 吉崎 正弘 氏

- 平成 22 年 10 月 5 日
「情報通信建設業界の動向」
(社) 情報通信エンジニアリング協会 専務理事 宮川 一巳 氏
- 平成 22 年 12 月 14 日
「環境・エネルギーから日本を考える」
NTT アドバンステクノロジー 工学博士 石川 宏 氏
- 平成 23 年 1 月 26 日
「世界の電子産業の動向」
特定非営利活動法人テレコム支援協議会 会長 桑原 守二 氏

5) ICT 研究会

定例の老テックパソコン教室は講師都合で休会としました。来年度再開するための事業計画の検討を行いました。また、活動に対し自治体から感謝状をいただきました

6) バイオリン演奏個人レッスン

20 回ほど開催し、レッスンにおける楽譜の電子書籍化を検討に着手しました

3. 財務状況

消費支出に財産の取崩しで推移しており、当財団の継続のためには財団事業が社会に受け入れられ収益構造を確保する必要があり、同時に公益法人として時代の変化をリードする研究成果実績を重ねていくことを求められています。本財団の生い立ちは早稲田大学の電気工学科と、電気通信学科の創設とかかわりがあり、国際社会の新しい時代をリードする産学協同の拠点として財団の役割を有効に機能させることを目指しております。

監督官庁（文部科学省）の定期現地検査を 1 月 30 日に受けました。新公益法人の移行に向けて事業内容の明確化を求められました。事務局機能の整備、研究会規則などの整備、など事業を進める環境整備などの改善策をまとめ次年度着実に推進する必要があります。

以上